

2019 年度ロシア留学体験レポート

新潟国際情報大学

国際学部 2 年

樋口美月

私は4か月間の留学を通して、多くのことを学び、様々な貴重な体験をすることができました。4か月という期間は長いようであつという間に過ぎていきました。私はあまり留学に対して不安に感じていることがなかったため、着いた当初は留學生活への期待がほとんどでした。少しの不安を挙げるならば、留學中の授業と寮での生活でした。授業が始まった当初は授業の内容がわからない上に先生と話すのが怖くて質問できず、授業に対して大きな焦りと不安がありました。しかし、励まし合える仲間がいたこともあって少しずつ授業にも慣れることができました。徐々に先生との距離も縮まり、毎日の授業が楽しいと感じるようになりました。寮生活では管理人さんとのコミュニケーションが着いた当初の大きな不安でした。英語が通じず、私たちもロシア語が話せなかったため不便に感じることも多々ありましたが、自分たちが少しずつロシア語を話せるようになるにつれ、コミュニケーションをとれるようになりました。帰る頃には普通に会話もできるようになり、

「また来てね」と言ってくれて寮生活も大きな留學の思い出となりました。この留學生活で最も印象的だったのは様々な人との出会いでした。寮内でも様々な国の人が生活しているため、すぐ近くで異文化交流をすることができました。特に韓国人留學生と出会ったことが私の留學生活をより充実させたと思います。彼らの中には日本語を学ぶ学生もいて、彼らと日本語で話せたことは私たちの留學生活の大きな支えとなってくれました。BΓYΘCで日本語を学ぶ学生達は私たち日本人を快く受け入れてくれて、休日になると沿海州水族館やトカレフスキー灯台など様々な場所へ連れて行ってくれました。また別の学生はブリヌイの作り方を教えてくれたり、ロシア語で行ったプレゼンテーションの練習に付き合ってくれたりと親切に接してくれました。毎週金曜日の夜に参加していた日本語会話クラブでも多くのロシア人と出会うことができました。彼らは日本語を学んでいることもあり一生懸命日本語で話してくれる人や日本語が上手な人もいてロシアの文化など色々な話をすることができました。レストランでわいわいとした雰囲気で行われるので毎週とても充実した時間を過ごすことができました。ロシア人は怖いというイメージがありましたが思っていた以上に店の人も優しい人が多く、ロシアという国がもっと好きになりました。

授業で自分のロシア語力を伸ばせたり、寮生活では自分で生活する力を身に付けることができたり、ロシア人をはじめ様々な人と出会えたり、留學に行けば必ず自分のプラスになるものがあると思います。授業で学んだ単語がふと普段の生活で聞こえたり、街中で手を貸したおばあさんと少し会話ができたり、留學中に多くの喜びがありました。この喜びをこれからのロシア語学習の糧にしていきたいと思います。